

## 1. 2017年度報告

Waseda Vision 150 に基づいて下記を 2017 年度学校目標として掲げ取り組んだ。

### <学校目標>

①各学術院との連携強化と高大接続の具体策の充実 ②留学期間を含む 3 年卒業制度の円滑な運用開始と留学への適切な支援の充実 ③主体的にライフ・デザインを構想し進路選択ができる施策の充実  
④大学での留学やダブルディグリープログラム・国際コースを視野に入れた指導体制・プログラムの研究と開発 ⑤社会・社会人との連携と協働を進め、より開かれた学校を実現する施策の充実  
⑥SGH(スーパーグローバルハイスクール)構想の着実な実践と国際交流の充実 ⑦SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の成果の普遍化と科学教育の充実 ⑧中学部と高校の円滑な接続 ⑨生徒の個性・能力・希望を育み伸ばす教育を追求する日常教育活動全般の改善と充実 ⑩キャンパス整備：施設の適切な運用と第 3 期工事以降の展望 ⑪災害への備え、生徒教職員の安全確保

### <重点項目>

#### ○知的探究心に基づき、ライフ・デザインを視野に収めた高・大接続と学部進学

入学後の早い時期から進路・目的意識を喚起するため、1 年生全員を対象に理工学術院教授による「ライフ・デザイン講演会」(6 月)を開催した。また、入学式後のオリエンテーションにおいて、1 年生全員を対象にして「大学 1 年生によるプレゼンテーション」を実施した。学院 3 年間の生活を振り返るとともに、学部生活への抱負と各人の進学学部選択のプロセスを語ってもらうことで、進路意識の喚起に貢献した。上記に加え、社会人 OB による「進路講演会」(3 年生対象 5 月)、OB によるパネル・ディスカッション(生徒・保護者対象 11 月)など、学部選択やキャリア・コース、ひいてはライフ・デザインにつながる取り組みを充実させた。

また、オープン科目の受講と単位先取り科目の拡充を進めるとともに、関係学部のご協力による学部・学院の連携授業を継続した。学院卒業生の大学での成長を支援することを目的として、学部・学院間での情報を共有する取り組みが緒に就いた。

#### ○国際交流と留学の充実

本年度より施行の「1 年間の留学期間を含む 3 年卒業制度」が円滑に運用され、対象者 2 名が留学した。さらに、全体の留学希望者の増加とともに低学年での留学希望者の増加を見た。協定校のロシア・サントペテルブルク 583 学校と相互の短期交換留学を成功させた。その他の協定校(シドニー、ベルリン、サントペテルブルク、北京)と協定団体 COLIBRI(仏)・PASCH(独)などを通じた活発な短期交換留学および国際交流が実施された。SGH 活動の一環としてオーストラリア研修を実施し、2018 年度のイギリス研修に向けた準備を進めた。中学部では、大学留学生による授業やオーストラリア研修など、国際交流を進めた。

#### ○生徒の特性を活かした活動の推進と日常教育活動全般の改善と充実

教科指導においては、大学での留学や国際学会等での発表を視野に収めた語学運用力を育成する新しい指導体制の構築と授業開発を推進して実現の見通しを得た。さらに一部には新たな教材として結実した。国際的なデザイナー佐藤オオキ氏のデザイン・オフィス n e n d o と協定を締結し「n e n d o 留学」(高校生版インターンシップ)を開始し、実社会から学ぶ取り組みを進めた。生徒の国際交流、部活動、学院の特徴であるプロジェクト活動などを発表する機会を「学芸発表会」(高校)・「学習発表会」(中学部)および各種の式典において拡充し支援した。生徒の諸活動を支援する目的をもって、高等学院指定寄附に「進取の精神」実践に寄与する募金項目を設け、生徒活動への支援を実施した。

## 2. 2018年度計画

Vision150 に基づき、知的探究心と知的探究力を培い、ひいては地球規模の問題に挑戦・貢献しうる資質を養うことを目的に、以下の学校目標を掲げる。

### <学校目標>

- ①ライフ・デザインを構想し主体的に進路を創造できる施策の充実
- ②各学術院との連携強化と高大接続の具体策の実践・拡充
- ③国際的な相互交流を充実する施策の推進と対応する授業・プログラム開発
- ④社会・社会人との連携と協働を進め、より開かれた学校を実現する施策の充実
- ⑤中学部と高校の円滑な接続に資する施策の推進
- ⑥主体的かつ協働的な学習や活動を実践する機会と環境の充実と第3期工事の展望

### <重点項目>

- ライフ・デザインの構想による主体的進路創造と高大接続を充実する取り組み

OB・社会人による講演等の充実とライブラリー化を試みる。「大学1年生プレゼンテーション」(新生オリエンテーションにて実施)、「ライフ・デザイン講演会」(研究者OBによる6月1年生全員対象)、「進路講演会」(社会人OB約20名による5月3年生対象)、「社会人OBによるグローバル社会と学院をテーマにしたパネルディスカッション」(11月生徒・保護者対象)などのOBや社会人による講演を継続し拡充するとともに一部についてライブラリー化に着手する。もって、学部選択を含む進路・目的意識を喚起し、主体的な進路創造に取り組める環境と機会を充実させる。

各学術院との連携強化と高大接続の具体策を実践・拡充する取り組みを拡充する。「学部WEEK」を創設し、学部の研究内容や特徴・魅力などについて展示・掲示・動画の配信などを通じて日常的に理解を深める機会とする。「モデル講義」(各学部5月)、「進路説明会」(理工3学部6月・その他学部9月)、大学設置のオープン科目の受講と単位先取り科目の拡充、各学部のご協力による連携授業の継続・拡充を合わせ、ライフ・デザインの取り組みとも相乗的に進路・目的意識の喚起と具体的なキャリア・コースについて認識を深める機会とする。また、各学部との情報共有を基礎に、学部進学後の学習・生活の充実と成長に資する方策の分析と協議を進める。SSH指定の終了を受けて、SSH活動の成果の継承と新たな科学教育の創造を目指して、関係する学術院と連携しつつ新規構想の具体化を進める。

- 国際的な相互交流を充実する施策の推進と対応する授業・プログラム開発と実践

米国コネチカット州の協定候補校と早期に協定を締結し、1年間の派遣留学を実現する。2017年度から実施の「1年間の留学期間を含む3年卒業制度」の円滑な実施とさらなる周知を図る。SGH活動の一環として「イギリス研修」(移民問題研究)を実施する。第二外国語圏を含めた長期・短期の留学先の拡充に努め、現状約10名の1年留學生徒と約130人の短期交換留学や海外への派遣交流をさらに拡充する。オーストラリア・中国・フランス・ロシア・台湾・ドイツ等の協定校や協定団体からの受け入れ短期交換留学を拡充し、国際的な相互交流機会を充実する。中学部では、ネパールなどと独自の国際交流を進める。もって、国際交流を通して地球規模の問題に関心を喚起しそれに挑戦する「意志」を育む。

2017年度より準備を進めてきた「大学での留学や国際学会等での発表を視野に収めた英語運用力」を育成する授業と指導体制の開発について、2019年度からの本格実施に向けて綿密な環境整備を行う。また、授業の取り組みと合わせ、国際機関などの外部機関と連携を進め、国際的な知的環境の整備を図る。

- 社会・社会人との連携・協働の推進と主体的・協働的な学習や活動の発展

「nendo留学」(デザイン・オフィスへの高校生版インターンシップ)の取り組みを完遂し、さらに社会と連携し社会から学ぶ取り組みを充実させる。生徒の主体的・共同的な学習・活動としての「プロジェクト活動」などを支援する。主体的・協働的な学習・活動に適する環境整備を検討し促進する。